



<http://www.daitoken.com/kyoto/index.htm>

## 大学図書館問題研究会京都支部 第 38 回京都支部総会のご案内

大図研京都支部会員の皆様へ

支部総会を下記の要領で開催します。皆様の積極的なご参加をお待ち申し上げております。

記

日 時：平成 27 年 8 月 4 日（火）

支部総会：19:00～20:00

会 場：キャンパスプラザ京都 2 階 和室

<http://www.consortium.or.jp/about-cp-kyoto/access>

※ 20:00～ 別途 JR 京都駅近辺で情報交換会を開催いたします。

### [目 次]

大学図書館問題研究会京都支部第 38 回京都支部総会のご案内	…	1
大学図書館問題研究会京都支部第 38 回京都支部総会議案	…	2
小特集：大図研近畿 3 支部合同例会		
「日本十進分類法新訂 10 版の全貌」参加報告		
大図研近畿 3 支部合同例会 「日本十進分類法新訂 10 版の全貌」に 参加して	小寺 祥世	… 6
新しい日本十進法分類	山上 朋宏	… 8
京都支部委員の募集について	…	10

○ ご意見・ご要望、投稿は下記、電子メールまたは URL へお寄せください。

電子メール：[kyoto@daitoken.com](mailto:kyoto@daitoken.com) （大学図書館問題研究会京都支部）

URL：<http://www.daitoken.com/kyoto/index.htm>

## 大学図書館問題研究会京都支部第 38 回京都支部総会議案

### 【第 1 号議案】

2014 年度 (2014.7～2015.6) 活動総括及び

2015 年度 (2015.7～2016.6) 活動方針

#### 1. 2014 年度活動総括

##### (1) 研究交流活動

2014 年度は「会員発表の場」「知的交流の場」「未会員への広報の場」として年 2 回程度の開催を目標に、3 回開催しました。今年は、大学図書館の見学・交流から、学生会員の発表、そして最新の情報収集など多岐に渡る内容と言えます。

##### 1) 秋の奈良！大学図書館見学ツアー

開催日時:2014 年 11 月 29 日(土) 10:00-17:00

主 催:大学図書館問題研究会京都支部・大阪支部

参加費:無料

参加者数:25 人

「奈良公園散策とランチの会」「奈良教育大学附属図書館見学会」「奈良女子大学学術情報センター見学会」「プレ忘年会」を実施しました。

##### 2) 飛び出せ！ダイトケン学生会員 ～学生の発表！学生との交流！～

開催日時:2015 年 1 月 10 日(土) 13:30-17:00 (13:00 開場)

会場:キャンパスプラザ京都 第 1 会議室

参加費:無料 (大学図書館問題研究会の会員でない方も無料です)

参加者数:17 人

学生会員 (齊藤 涼さん) の研究発表「国民精神総動員文庫について～1 年間の調査報告」。

学生によるポスターセッション (立命館大学、京都女子大学)。図書館で働く学生によるバーチャル図書館案内を実施しました。学生との交流が印象的な企画となりました。

##### 3) 大図研近畿 3 支部合同例会 日本十進分類法新訂 10 版の全貌

開催日時:2015 年 3 月 21 日 (土) 13:45-17:00

会場:京都市国際交流会館 第 1 会議室・第 2 会議室

講師:藤倉 恵一 氏 (文教大学越谷図書館)

共催:大学図書館問題研究会大阪支部・兵庫支部

参加費:大図研会員は無料 (非会員は 500 円)

参加者:51 人

NDC10 版が刊行されましたが、外見からして“大きく”変わりました。「なぜ変わったのか」「かたちのほかにどこが変わったのか」「変わらなかったものは今後どうなるのか」「今後といえば“あの話”はどうなっているのか」などなど、時間の限り、そして許されるギリギリのところまで、徹底解剖していただきました。

##### (2) 支部報

2014 年度刊行分につきましては、発行期日の遅れが生じた号もありましたが、計画的発行に努めました。連続企画としての「わたしの図書館紹介します！」や、新入会員が入会するたびに「新入会員挨拶」を継続して掲載してきました。また、2014 年度はワンディセミナーの報告原稿を充実させるとともに、支部会員が参加した他支部のイベントの報告も掲載いたしました。2014 年度発行した支部報の目次は、次のとおりです。

1) 支部報 No.301 (2014/08/15 発行)

- 大学図書館問題研究会京都支部第 37 回京都支部総会を開催いたしました
- 大学図書館問題研究会第 37 回京都支部総会議案

2) 支部報 No.302 (2014/10/15 発行)

- 大学図書館見学ツアーのご案内
- 小特集：大図研京都ワンディセミナー  
「公開！」関西ディスカバリー担当者会議」参加報告  
・「公開！」関西ディスカバリーサービス担当者会議」に参加して(太田 仁)  
・ディスカバリーサービスについて議論した一日(金森 悠一)  
・ディスカバリーサービスをめぐるさまざまな「戦略」を考えながら(古賀 崇)
- 支部委員 挨拶

3) 支部報 No.303 (2014/12/15 発行)

- 大図研近畿 3 支部新春合同例会のご案内
- 連続企画：私の図書館紹介します 6 京都橘大学(中村 敬仁)
- 新入会員挨拶(山形 知実)
- 新入会員挨拶(津田 直暉)
- 会費納入のお願い

4) 支部報 No.304 (2015/02/15 発行)

- 大図研近畿 3 支部新春合同例会のご案内
- 小特集：大図研京都ワンディセミナー「飛び出せ！ダイトケン学生会員～学生の発表！学生との交流！～」参加報告  
・大図研京都ワンディセミナーの感想(出口 慎一)  
・若い力に希望を感じた研修会(山下 晶子)
- 「秋の奈良！大学図書館見学ツアー」参加報告 奈良はゆったり美しい(平川 陽子)
- 『アナログ司書の末裔伝：図館員は本を目で見て、手でさわらなあかんよー廣庭基介先生傘寿記念誌の薦めー』(堤 美智子)

5) 支部報 No.305 (2015/04/15 発行)

- 大図研近畿 3 支部合同例会 終了しました
- 大学図書館問題研究会大阪支部例会「春を求めて和歌山へ：和歌山大学附属図書館渡部館長講演会、図書館見学と和歌山散策」に参加して(今野 創祐)
- オープンアクセスと被引用率の関係 - 京都大学における生命科学系論文の統計から見えるもの(坂本 拓)
- 『異動に伴うアドレス等変更のご連絡のお願い』

6) 支部報 No.306 (2015/06/15 発行)

- 大学図書館問題研究会京都支部第 38 回京都支部総会のご案内

- 大学図書館問題研究会京都支部第 38 回京都支部総会議案
- 小特集：大図研近畿 3 支部新春合同例会「日本十進分類法新訂 10 版の全貌」参加報告
  - ・大図研近畿 3 支部合同例会「日本十進分類法新訂 10 版の全貌」に参加して(小寺 祥世)
  - ・新しい日本十進法分類(山上 朋宏)
- 京都支部委員の募集について

### (3) Web サイト、メーリングリスト、メールマガジン

Web サイトでは、イベントのお知らせや、支部委員会の報告等、支部活動の記録を定期的かつ迅速に掲載しています。また、2011 年度以降、支部報記事の電子化を実施しています。また、1-150 号についても電子化作業が完了し公開しました。Web サイトは 2014 年 6 月 20 日現在、18,069 アクセスを得ています(アクセスカウンター設置:2006 年 8 月 22 日)。

メールマガジンは、「大図研京都支部 NewsLetter」として、no.173 (2013 年 7 月 2 日) から no.180 (2014 年 5 月 31 日) を発行しました。支部活動をお知らせするものとして、従来の支部委員会議事録、支部企画案内等に加え、2011 年度からは支部報の発行を目次・概要とともに紹介する記事を配信しています。また、月 1 回のイベント案内を定期的に配信することに加え、支部会員によるメーリングリストの積極的な活用を狙って、試行的に支部委員という立場を離れて、一人の会員という立場から個別にイベント案内を発信しました。

さらに、Twitter の活用を図り、394 アカウントのフォロワーを得ています。忘年会やワンディセミナー告知、支部報や議事録の発行の広報を行いました。

### (4) 組織活動

今年度は、支部組織について再検討する年としており、大図研会費徴収 WG に 2 名、会員組織 WG に 1 名が支部委員より参加し、今後の大図研について検討いたしました。

本格的にグループ制への移行は来年度になる予定となっており、支部規約の変更については実施いたしませんでした。会員組織 WG の提案により、全国委員会で承認された個人情報の取り扱いについて支部での運用を一部変更しました。

支部としては継続して活動を行いましたが、支部会員が 2012 年度時点の 69 名まで減少しています。

### (5) 財務

2013 年度に引き続き、会費納入率の向上に努めました。なお、過去の未納率は次のようになっています。2007 年度以前は 0%、2008 年度 1%、2009 年度 1%、2010 年度 3%、2011 年度 1%、2012 年度 1%、2013 年度 1%、2014 年度 9%。多数の企画が実現したため研究交流会費に多くの予算を使用いたしました。

### (6) 広報とデザイン

「秋の奈良！大学図書館見学ツアー」、大図研京都ワンディセミナー「飛び出せ！ダイトケン学生会員 ～学生の発表！学生との交流！～」及び「大図研近畿 3 支部合同例会日本十進分類法新訂 10 版の全貌」についてチラシの作成を担当しました。ただ特定の担当者に業務が集中してしまったため、次年度はこの点を改めます。

## 2. 2015 年度活動方針

### (1) 研究交流活動

- 会員の発表の場としての研究交流活動の企画に積極的に取り組みます。
- 会員の知的交流の場であると共に非会員への広報でもあるという意味を再認識し、組織拡大への貢献も大きな柱といたします。そのためにも、地域における積極的な参加を促すため、京都および周辺地域の大学図書館等、関連する組織への広報も継続していきます。
- 2015 年セミナーは 7 月と 8 月の計 2 回が既に計画されていますので、開催頻度としては、年 4 回程度を目標といたします。

### (2) 支部報

定期発行と正確で読みやすい誌面の作成とともに、広く寄稿を求めかつ連載記事を企画することにより、コンテンツの一層の充実に努めます。今後も、会員に「発表の場を提供する」という目標のもと、会員間での情報共有が進むためのきっかけを提供することを目指し、引き続き努力していきます。

### (3) Web サイト、メーリングリスト、メールマガジン

Web サイトを随時更新することで、京都支部が主催・共催する種々の活動情報や電子化された支部報記事を迅速に提供します。その他のコンテンツの拡充についても継続して検討していきます。

また、メーリングリスト"ゆりかもめ"について、定期配信のメールマガジンについて、より読まれるような内容にする工夫を継続するとともに、配信のタイミングについて検討していきます。同時に、その目的である"会員相互の親睦と交流を盛んにすること"の達成を目指し、会員による自由な投稿を促進するよう検討を重ねます。

さらに、広報活動の一環として **Twitter** アカウントの積極的活用を継続します。

### (4) 組織活動

常任委員会、全国委員会の大図研将来検討に伴い、支部組織について再検討する必要があります。

引き続き支部委員より会員組織 **WG** に 1 名参加し、検討を継続いたします。2014 年大図研総会後、臨時総会を開き支部規約等の変更を行なう予定です。

支部としては今後とも継続して活動を行い、支部の持つ魅力を認識し、高め、入会者が大図研京都支部に在籍していることにより一層価値を見いだせるような活動を行います。

### (5) 財務

今後の活発な研究企画実施のため、研究企画費を継続します。常任委員会、全国委員会の大図研将来検討に伴い、会費徴収の方法について再検討する必要があります。2014 年大図研総会後、臨時総会を開き支部規約等の変更を行なう予定です。また、常任委員会の会計補助に支部より 1 名参加する予定です。

### (6) 広報とデザイン

近年活発に行っているセミナー等において、チラシ作成等の広報活動を効果的に行います。また Web サイト等のデザインについて見直し、必要に応じて修正を行います。

---

**小特集:大図研近畿 3 支部合同例会  
「日本十進分類法新訂 10 版の全貌」参加報告**

**大図研近畿 3 支部合同例会 「日本十進分類法新訂 10 版の全貌」に参加して**

**小寺 祥世**

---

2015年3月21日に京都市国際交流会館にて開催された、大学図書館問題研究会近畿3支部合同例会に参加させていただきました。今回、「日本十進分類法新訂10版の全貌」というテーマのもと、文教大学越谷図書館司書で日本十進分類法新訂10版(以下「NDC新訂10版」と記載いたします。)にも携わられた藤倉恵一氏をご講演されました。図書館員にとって必要不可欠であるNDCの改版とあって、当日の講演会には多くの方が参加され、講演会終了後の質疑応答は時間が足りないほど活発に行われました。講演者である藤倉氏は、ご自身用のNDCを何冊も持っておられるというNDCに対してとても熱い思いを持っておられる方です。今回の改版について経緯や変更点だけでなく編集委員として携わる中でNDC新訂10版ができるまでの裏話、苦労話等も語って下さいました。藤倉氏のご講演はとても貴重なお話ばかりでとても勉強になり、今後のNDCの展開が楽しみでもあります。

今回、この参加報告の執筆を仰せつかりましたので、講演で話題になった内容のご紹介と私の所感を記させていただきます。報告にあたり、私自身が図書館員として1年にも満たない身ですので、知識、経験とも浅く至らぬ箇所等もありますが、何卒、ご容赦下さいますようお願い申し上げます。

**1、NDC 新訂 10 版に至るまで**

NDC 改版について、まず藤倉氏は新訂 10 版の前版である新訂 9 版に至るまでの説明からされました。NDC には体系的問題、論理的問題等の指摘が元々からあり、改版の際には委員会で検討され改善に努められています。その際には NDC の改版によって実際に使用している図書館で大きな負担を生じないように考えられ、例えば新訂 9 版は記号や構成の大幅な改変を極力避け、8 版との継続性を重視して作成されたとのこと。そして新訂 10 版では 17 名の委員の方が編集に携われ、新訂 9 版を踏襲し、NDC の根幹にかかわる体系の変更はせず、また書誌分類法を視野に置き、新主題の追加や項目の修正・追加等が行われたということです。また今回の新訂 10 版作成にあたり、初めて、ホームページ上で試案を公開されました。紙による公表の場合、限られた枚数の中で限られた分量しか公表できないといったことを考慮した試みであったようです。情報共有においてインターネットを活用するという時代にあわせた方法が活用されていると感じました。

**2、NDC 新訂 10 版での変更点**

NDC 新訂 10 版における変更点としては、まず外見の変更ですが、従来の A5 判から B5 判になっています。従来通りの A5 判では 1 センチ近く厚さが増してしまい広げにくいということで B5 判となったそうです。大きさの変更にはこの他にも、図書館 3 大ツールといわれている資料を並べた際に NDC のみ大きさが違い、配架や持ち運びに不都合が生じる場合があるといった理由も影響しているとのことでした。また新訂 9 版では本表と補助表を一緒に広げて使用できるようにという考えから別冊にされていましたが、反面、索引編や固有補助表が軽視されてしまうということがあったようです。そこで新訂 10 版では本表と補助表が 1 冊に収録され、指でページを挟むなどしてコンパクトに

使用できるようになりました。この新訂 10 版では第 1 分冊である本表・補助表編と第 2 分冊である使用法・相関索引編に分けられ、利活用の際は第 1 分冊を主に使用し、第 2 分冊は第 1 分冊を使用する上で不十分な個所を補う、いわば支援役といったような役割分担の意図があるそうです。また分冊によってページ数に明確な差をつけることで厚さを変えることや、背に◆で巻次を表示することで視覚的にもどちらの分冊かがわかりやすくなりました。他にも小口見出しや表紙のロゴの位置など使用しやすいように様々な工夫がされています。

次に中身に関してですが、インデントを全角にすることで文字の頭をそろえることができ、新訂 9 版の半角での文字の頭にズレが出ることで正誤判定が難しいという点が改善されました。改ページに関しても、ページ末に中間見出しや網レベルの分類がきた際には改ページをすることで見落としがなくなるよう工夫されています。

そして新訂 10 版では初心者への配慮がさらになされており、使用法、用語解説、事項索引が追加されたことで、より NDC を分かりやすく使用することができると思います。分類、NDC とは何かといった基本的な事項の解説や、NDC はどのように使うのかというマニュアル的な手引きに加え、図書館用語など専門的な用語を定義することで、誰にもわかりやすい、万人が使える NDC になっていると思います。そして事項索引によってどこにその用語が出てくるのかを調べられることでより使いやすいものになったと思います。

分類の項目に関しては発展分野や重複分野等を検討することで、新設あるいは削除が行われたということでした。現在の図書館において分類は書架のために付与されるという考えが強く、請求ラベルに入りきらないという理由から桁を短くすることもあると思います。しかし本来の分類には書誌分類の意味があり、複数の分類、分類を細分することで、1 つの観点にとらわれず多様な観点と複数の主題を表現することが求められています。今回の新訂 10 版ではこの考えも強調されているということで、分類法のあり方に関しても今後、考えていかななくてはと私も強く感じました。

その他にも、外来語表記は一般的なものを採用するといったことや、戦後から変わっていなかった文字の変更、例えば、「ニッポン」→「ニホン」といった読み方の変更、「N.D.C」を「NDC」と表記を変更するなど、より一般的に親しまれている表記に変更するといった改善がされました。これら改訂の経緯をお聞きし、新訂 10 版では、従来の NDC をさらに使いやすく、わかりやすくする工夫が凝らされているのだと感じました。図書館員だけが NDC を使いこなすのではなく、大人や子どもといった利用者も NDC を使って資料を利活用できるように NDC をより良くしていく必要があるのだと感じました。

### 3、終わりに

今回の講演において NDC とは何か、どうあるべきか、どのように発展していくのか等、多くのことを学ぶことができました。藤倉氏によると NDC 新訂 10 版はまだまだ課題も多く改善点もあるとのことで、今後の展開にたいへん期待しています。

最後になりましたが、今回の講演者である藤倉恵一氏と、運営してくださいました大学図書館問題研究会近畿 3 支部の皆様にご心よりお礼申し上げます。この度は貴重な機会をありがとうございました。

おでら さちよ (大谷大学図書館)

---

**小特集:大図研近畿 3 支部合同例会**  
**「日本十進分類法新訂 10 版の全貌」参加報告****新しい日本十進法分類****山上 朋宏**

---

3月21日に京都市国際交流会館で開催された大図研近畿3支部合同例会「日本十進分類法新訂10版の全貌」に参加しました。講師をされた文教大学越谷図書館の藤倉恵一さんは日本図書館協会分類委員会の一員であり、NDC(日本十進分類法)の改訂について直接携わった方です。その方のお話を直接伺えるとあって、会員でない方も含め多くの参加者がありました。

講演は、NDC10版の改訂作業に始まり、具体的な変更点、今後の展望についてのお話等、盛りだくさんの内容でした。

以下、講演内容について簡単ですが報告させていただきます。

**新訂 10 版に至るまで**

改訂に関わる分類委員会は2002年から活動を開始し、10年以上の年月をかけて改訂が行なわれました。改訂という事業の大きさ、困難さについて思い知らされました。また、異動等で交代があったとはいえ大学教員3名、NDL(国立国会図書館)担当者2名、MARC会社2名、公共図書館1名、大学図書館1名等の計10名の委員でこれほどの事業を運営していたことにも驚かされました。

NDC10版で新主題の追加や項目の追加・修正など変更もありましたが、改訂方針としてNDCの根幹に関わる体系の変更はしなかったそうです。講演の最初に9版の歴史についてもお話していただいたのですが、論理構造について批判が多かったにもかかわらず実際に使用している図書館に大きな負担が生じるような変更がないよう前版の9版も8版との継続性を重視する方針が採られました。多くの図書館で使用されるがゆえの大きな変更の難しさを感じました。

**NDCの外見**

NDC10版は内容だけではなく、外見の面でも変更がありました。まず目につくのが大きさがA5からB5になったことです。A5サイズで改訂するとページ増に伴い1cm近く厚みが増してしまうことと、目録三大ツールである日本目録規則や基本件名標目表とサイズを合わせることから変更になりました。

大きさだけでなく、コンテンツ配分の見直しを行った結果、厚さも変化しました。9版では本表を広げながら補助表も参照できるよう一般補助表と本表が別冊になりましたが、「索引編」が軽視されることによって固有補助表も軽視されてしまいました。10版は第1分冊(本表・補助票編)を分類付与のため、第2分冊(使用法・相関索引編)を付与支援のためと、冊子ごとの性格付けを明確にしました。これにより、前述の問題点が解消されるだけでなく、習熟者は第一分冊だけで付与できるようになりました。また、9版は厚さが2冊ともほぼ同じで、一瞥ではどちらの冊子か判断しづらかったのですが、コンテンツ配分の見直しにより、第2分冊(相関索引・使用法編)が薄くなったため簡単に見分けがつくようになりました。またさらに親切なことに背の◆が第1分冊(本表・補助表編)が◆1つ、第2分冊(相関索引・使用法編)が◆2つになっています。

また、個人的には数ある変更のなかでも特に良いと思ったのが9版では相関索引のみだった小口の見出しが10版では本表と索引の両方につけられ、探しやすくなったこと



です。

ページの見やすさについても注意が払われておりインデントを半角から全角に変更したり、大事な注記や見出しがページをまたぐことを防ぐために中間見出しや網レベルの分類がくるときに改ページするようになっています。

以上のように使用者に対する配慮が行き届いており、表紙のロゴのエンボス加工をバーコードラベルを貼るために左下から右上に変更したお話を聞いた時はユーザビリティここに極まれりの感を強くしました。

#### コンテンツについて

7版8版には原编者によるガイドがありました。9版はそれにあたるものがなく、代わりに解説がつきましたが、初学者からみると分かりにくいものでした。10版は初学者に配慮して分類自体についての「序説」、NDCのマニュアルに特化した「使用法」、用語の定義をまとめた「用語解説」、それらの出現箇所をまとめた「事項索引」を作成しました。この「序説」と「使用法」ではNDCが志向する書誌分類についても触れられています。日本では分類とは書架分類であり、ラベルに記載されているものとの意識が強く、せめて「重出(副出)」により、書誌に複数の分類記号を付与し、多様な観点や複数の主題を表現して欲しいという願いが込められています。

他には分類項目・別法の新設や項目の削除、常用漢字外や外来語表記などの文字の変更、関連索引の増加などの変更がありました。

#### 近日中の課題・予定

MRDF10の在り方について現在検討が行われており、2016年には完成する予定です。また、10版ではないそうですが、8版と9版についてLinked Data化の共同研究をNDLと実施するらしくこれからも注視していきたいです。

#### 将来に向けて

8版以降の継ぎ足しによる項目の新設はもはや限界が近づいており、体系自体の抜本の見直しが必要とのことでした。8版以前の出版事情・社会事象に基づく体系に現在の新しいものを無理矢理収めており、体系を変えないことの弊害が出ています。藤倉さん是对策としてDDCで用いられる「フェニックス」と呼ばれる改訂方法について紹介されていました。これは改訂2回分の時間をかけて、特定分野を記号法ごと改訂するという方法です。

ただし、過去の分類委員会が大規模改訂を避けてきた理由にもあるように、抜本的な改訂は使用している図書館に大規模な分類訂正をもたらすことになり実現するには多大な困難を伴うとのことでした。

以上、講演内容について簡単ではありますが報告させていただきました。当日は休憩時間中にNDC10版の販売も行われていましたが予約者だけではなく、当日買われている方もいました。折を見て読ませていただいております。

最後になりましたがこのたびは貴重な講演をお聞かせいただき、本当にありがとうございました。

やまがみ ともひろ(京都大学経済学部図書室)

## 京都支部委員の募集について

京都支部では、2015年度(2015年7月～2016年6月)の京都支部委員を募集します。支部委員会では、企画を実現したり、Webサイトや出版物を作成したり、組織管理をしたりといった日常の仕事ではできない経験とともに、組織を超えた人とのつながりを得ることができます。私たちといっしょに活動してくださる方を待っています。詳しくは以下をご覧ください。

1. 募集対象 京都支部会員の方
2. 募集期間 2015年7月1日(水)～7月31日(金)
3. 活動内容 支部委員は下記にあげる担当を分担します。

支部長： 連絡調整等

副支部長： 支部長の補佐

全国委員： 大学図書館問題研究会全国委員会への出席(年数回・東京)  
全国大会での分科会運営

研究企画： セミナー等の企画立案(実施にあたっては、広報等事前準備から  
当日の運営まで、全支部委員で行います)

支部報編集： 「京都支部報」の記事企画と編集

支部報印刷と発送： 支部報の作成。その他広報物等の発送

メールマガジン： メールマガジン「yurikamome」記事の作成と送信  
支部 Twitterによる情報発信

WebサイトとML： 京都支部 Webサイトの作成と管理運営

支部委員会連絡・アーカイブ用サイトおよびMLの管理運営

組織・財務： 会員現勢管理、会費徴収、支部活動に関する収入支出管理

「大学の図書館」編集： 全国誌「大学の図書館」京都支部担当号の企画と編集

4. 応募・問い合わせ先

応募のお知らせやご不明な点の問い合わせなどは、下記京都支部メールまで、またはお近くの支部委員までお願いします。

京都支部メール：[kyoto@daitoken.com](mailto:kyoto@daitoken.com)

### ◇ 会費納入のお願い ◇

会員のみなさまにおかれましてはご健勝のことと存じます。

大図研会費および京都支部会費の納入をお願いしているところですが、納入率は依然思わしくない状態にあります。新年度に入りましたので2015年度(大図研会計年度2015.7\_2016.6)の会費の納付を何卒よろしくお願い致します。また、2014年度以前の会費をお納めいただいていない会員のみなさま、一刻も早い会費の納入にご協力いただきますようお願い致します。

**会費は、¥7,000(大図研会費：¥5,000+京都支部会費：¥2,000)です。**

会費は下記口座に郵便振替でお送りいただくか、お近くの支部委員におことづけください。

**郵便振替振替口座番号 01090-4-5904 大学図書館問題研究会京都支部**

また、ご不明な点は大学図書館問題研究会京都支部([kyoto@daitoken.com](mailto:kyoto@daitoken.com))まで。